

難治性疾患克服研究の対象となっている 121 疾患について

主任研究者； 橋本 公二

疾 患 名； 重症多形滲出性紅斑（急性期）

1. 初代研究班発足から現在までの間の研究成果について（特定疾患の研究班が独自に解明・開発し、本研究事業として公表したもの。なお、原則他の研究事業等に依存していないもの。）

（1）原因究明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期 及び 班長名（当時）	内容	備考
1	2003 年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑（急性期）の診断基準案の作成	
2	2003 年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑（急性期）の早期診断法の開発	
3	2004 年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑（急性期）の診断基準案 2004 の作成	
4	2005 年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑（急性期）の診断基準 2005 の作成	

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

（2）発生機序の解明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期 及び 班長名（当時）	内容	備考
1	2004 年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑小児例と成人例で原因が異なることを発見	
2	2004 年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑小児例と成人例で臓器障害の程度が異なることを発見	
3	2005 年 橋本公二	重症薬疹患者登録カードの構築	
4	2005 年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑重症度スコア案の作成	

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	2005年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑に対するステロイドパルス療法 の開発	
2	2005年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑に対するステロイドパルス療法 と少量免疫グロブリン静注療法の開発	
3	2005年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑に対する大量免疫グロブリン静 注療法の開発	

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	2005年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑に対する血漿交換療法の開発	
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

ウ その他根本治療の開発について

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	2005年 橋本公二	重症多形滲出性紅斑の角膜上皮欠損に対する三次元 角膜移植法の開発	
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

2. 「1」以外で、国内、国外を問わず、研究成果の現在の主な状況について

(1) 原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

(2) 発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

ウ その他根本治療の開発について

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

3.現時点において、次の事項について残された主要な課題及び今後の研究スケジュールについて

(1)原因の解明について

	課 題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	薬剤に対する免疫応答制御機能の解明	可能	10年以内
2	患者登録システムの整備	可能	5年以内

(2)発生機序の解明について

	課 題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	重症度スコアの作成	可能	2年以内
2	重症多形滲出性紅斑における遺伝的背景の解明	可能	10年以内
3	重症多形滲出性紅斑におけるウィルス再活性化の解明	可能	10年以内

(3)治療法(予防法を含む)の開発

	課 題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	早期臨床診断法の開発(既存方法の改良など)	可能	4~5年以内
2	血液中、組織中の微量ウィルス蛋白の検出法 の開発	可能	4~5年以内
3	重症多形滲出性紅斑の治療指針の作成	可能	2~3年以内
4	特異抗体やワクチンを用いた免疫療法の開発	可能	10年以内
5	解明された発症機序にもとづく根本的治療法 の開発	可能	15年以内

4. 重症化防止対策について

大多数の患者に対して外来通院によって症状のコントロールが可能な治療法（重症化防止のための治療法）の確立

	重症化防止のための治療法確立について解決すべき課題	5年以内に解決できる可能性	解決不可能な場合の理由	左記理由を解決していくスケジュール
1				
2				
3				
4				
5				